

ビンナガ 南大西洋

Albacore, *Thunnus alahunga*

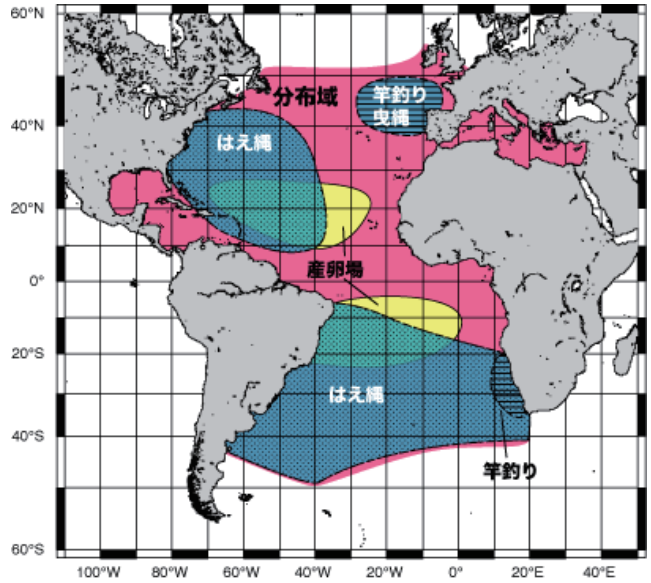


管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

2007 年 7 月に ICCAT 調査統計委員会 (SCRS) は大西洋ビンナガの資源評価会合を行った。その結果、南大西洋ビンナガについては前回資源評価よりもやや悲観的となったが、現在の漁獲係数が高くなかったため、科学委員会からの勧告には TAC を削減する旨は記されなかった。しかし行政官会合では TAC を削減する決定がなされた。



南大西洋のビンナガの分布と主な漁場

生物学的特性

- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳頃
- 産卵場：南緯 10～25 度の南米大陸寄り
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

漁業の特徴

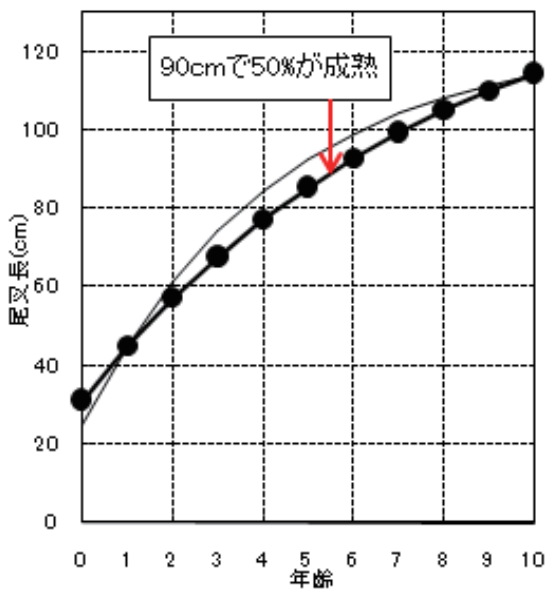
南大西洋のビンナガは、台湾（はえ縄漁業）および南アフリカ（竿釣り漁業）によって主として漁獲されており、ブラジル、ナミビアがこれに次ぐ。特に台湾のはえ縄の割合は高く、1973 年以降総漁獲量の 6～9 割を占めてきた。台湾のはえ縄漁業は伝統的にビンナガを主対象とした操業が行われており、亜熱帯から温帯域の広い海域で周年操業している。

利用・用途

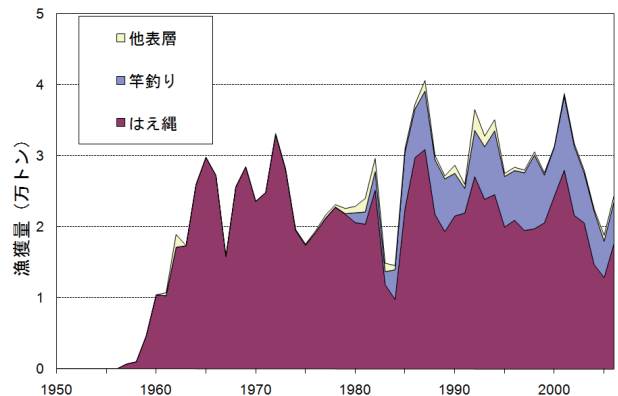
刺身や缶詰原料とされる。

漁業資源の動向

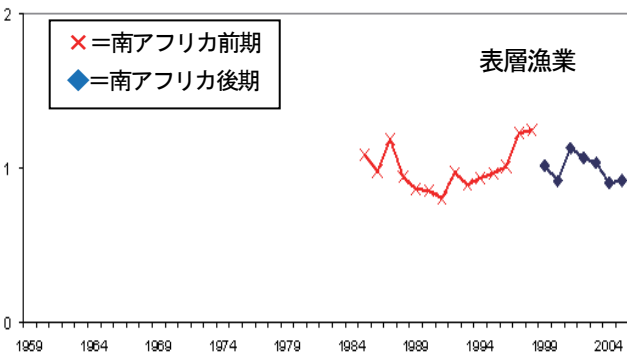
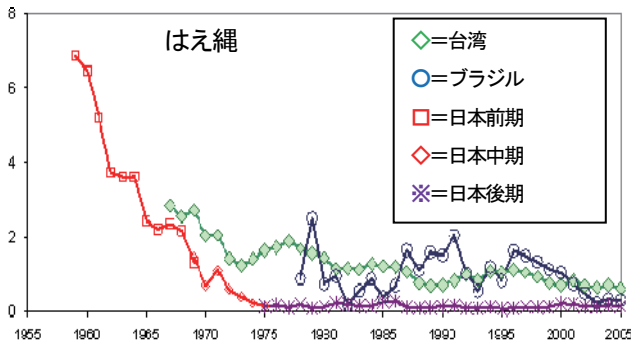
総漁獲量は 1960 年代～1970 年代にはおよそ 2.0 万～3.5 万トンの範囲で推移していたが、1980 年代後半～2000 年代の初めごろには 2.6 万～4.0 万トンとより高い水準となった。その後総漁獲量はかなり急激に減少し、2005 年に過去 20 年で最低となる 1.9 万トンとなったが、2006 年には約 5 千トン増加し 2.4 万トンとなった。近年の総漁獲量の減少ははえ縄による漁獲の減少によるところが大きいが、これ以外の変動要因として表層漁業の年々の漁獲量の変動が加わっている。



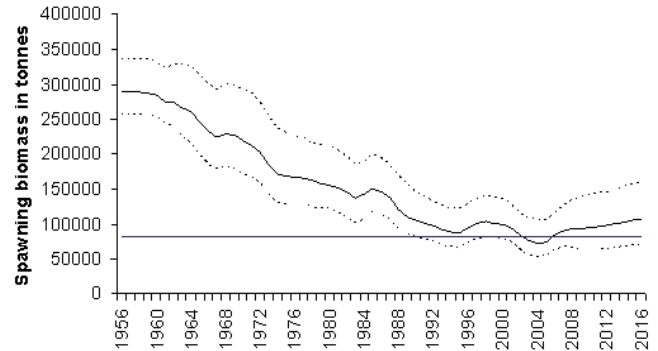
南大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係
太線は Lee and Yeh (2007)
細線は Bard and Compean-Jimenz (1980)。



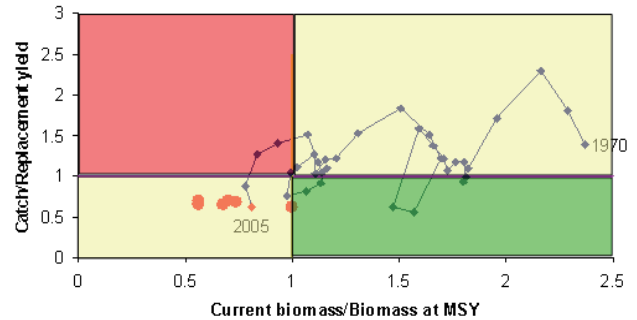
南太平洋ビンナガの国別漁獲量 (ICCAT 2007 SCRS Report より)



資源評価に用いられた各国漁業の CPUE
(ICCAT 2007 SCRS Report より)



ASPM で推定された親魚資源量 (2005 年まで) および将来予測で得られた親魚資源量 (2006 年以降) の時系列
(ICCAT 2007 SCRS Report より)



1970~2005 年の資源状態を表す replacement yeild を基準とした相対漁獲量と MSY を基準とした相対資源量 (B/B_{MSY}) との間の位置関係。(ICCAT 2007 SCRS Report より)

資源状態

2007 年に行われた最新の資源評価では、近年の親魚資源量は漁業を行わない状態との比で約 25% となっており、現在の資源量は MSY レベルよりも低く、B_{MSY} の約 90% であろうと推定された。一方 2005 年の漁獲係数は MSY レベルの約 60% であるとされた。MSY は約 3.3 万トン、資源量を維持できる漁獲量 (replacement yield) は約 2.9 万トンと推定された。2006~2007 年の漁獲量が replacement yield (約 2.9 万トン) 以下であれば、この 2~3 年は親魚資源量が増加すると見込まれた。

管理方策

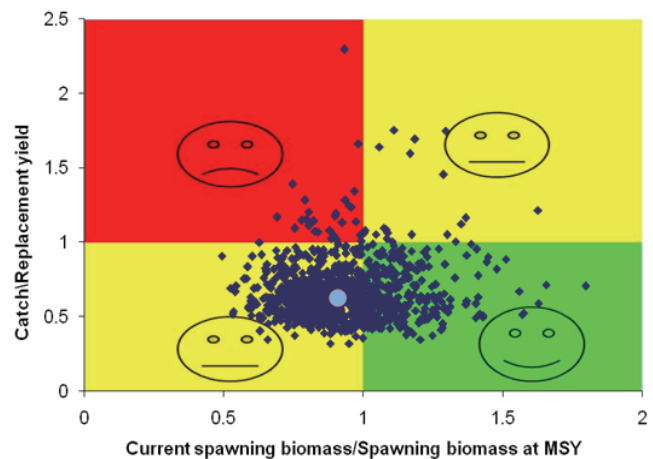
2007 年 11 月の年次会合では、それまで 30,915 トンだった TAC を減少させ、2008 年~2011 年までの TAC を 29,900 トンとする決定をした。日本についての漁獲量は南大西洋 (北緯 5 度以南) におけるはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下になるよう努力するというこれまでと同様の規制が課せられた。

資源評価まとめ

- 2005 年の資源量は MSY レベルよりも低く、B_{MSY} の約 90%。
- 2005 年の漁獲係数は MSY レベルよりも低く、F_{MSY} の約 60%。

資源管理方策まとめ

- 2008 年~2011 年の TAC は 29,900 トン。
- 日本は、ビンナガの漁獲量を南大西洋のはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下にするよう努力するという規制が課せられている。



南大西洋ビンナガの 2005 年における資源状態と推定値のばらつき (ICCAT 2007 SCRS Report より)

ビンナガ (南大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1.9~3.2 万トン 平均値 2.5 万トン (2002~2006 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	231~509 トン 平均値 341 トン (2002~2006 年)